

まちの緑を考える 大久保北部で再び開発の手&工場緑化

第28回 市民まちづくり連続講座 6/19 (土) テーマ変更して開催

新型コロナウイルスの「第4波」が昨年秋から続く中で、緊急事態宣言は今年1月8日に2回目が発令されてからは3月21日～4月25日の解除期間を除くほか、ほぼ年初から半年間に及んでいます。暮らしや営業、事業者は重大な危機に瀕していますが、政府は始まった「ワクチン頼み」で7月からの東京オリンピック・パラリンピックを強行しようとしています。国民はじめ医療専門家らは警鐘を鳴らして中止を求めています、さらなる感染拡大も懸念される本格的な夏を迎えようとしています。

市民自治あかしの討論集会や市民まちづくり連続講座もこの間、1月の「市民と議員の意見交換会」を中止したのをはじめ、2月、4月、5月の「市民まちづくり講座」も中止・延期してきましたが、6月19日(土)から再開します。

テーマは少し順番を入れ替えて、6月19日は「まちの緑を考える」と題して、大久保北部の市街化調整区域(石ヶ谷、松陰新田)で浮上した高速道路延伸の工事土砂廃棄場の受け入れと便乗開発計画、および工場緑地面積の規制を緩和する問題を取り上げます。

第28回 市民まちづくり連続講座 in 明石

日時 2021年6月19日(土) 午後1時30分～4時30分

会場 ウィズあかし8階 市民活動支援センター・スペースAB (アスパア明石8階)

テーマ まちの緑を考える—大久保北部開発計画の浮上と工場緑化規制の緩和

講師 丸谷聡子さん (環境教育コーディネーター、明石市議)

※事前申し込みは不要。どなたでも参加できます。当日会場にお越しください。

工場緑地の規制緩和問題とは、工場立地法によって工場周辺の環境を守るために、一定規模以上の工場は敷地面積の一定割合で「緑地」を設けねばならないという規制です。工場内の敷地を緑化することは、工場にとっても工場環境の改善や騒音・防塵の軽減効果、従業員のストレス軽減と企業イメージのアップにつながるメリットもあります。

しかし、経営環境が厳しくなると「環境よりも経営・生産効率」を優先する傾向が強くなり、全国的にも「緑地面積率」の縮小を求める動きが相次ぎ、近年「緑地面積率」の緩和を図る市が相次いでいます。

明石市でも一部企業の要請から明石商工会議所が規制緩和を求めているほか、環境保全を優先する市民団体からは規制緩和に反対する要望書等が出ています。市は昨年、学識者や市民を入れた「工場緑地のあり方検討会議」を発足し、議論を進めているが、コロナ感染で進行が遅れがちで6月議会にも提案を見送っています。

<大久保北部開発計画は裏面をご参照ください>

市民まちづくり連続講座 in 明石 2021年の講座開催計画

回	日時	テーマと内容	会場
	7月24日(土)	トークサロン「草の根の市民自治を掘り起こそう」 (&総会)	ウィズあかし8階スペースAB
29	8月29日(日)	次期総合計画 (SDGs推進計画) をどう共有するか(出前講座)	ウィズあかし8階スペースAB

※8/29は予定。今後のコロナ感染の進展状況により、開催日程の変更があるかもしれませんので、ご注意ください。

大久保北部「石ヶ谷、松陰新田」の自然林、再び危機

神戸西バイパス延伸工事の排出土砂受け入れ、造成地の活用を市が検討

今年3月市議会で泉市長が突然表明し、明らかになった。神戸西バイパスは第2神明道路のバイパスとして神戸市垂水区の垂水ジャンクション（JCT）から西区を迂回して大久保IC東の石ヶ谷JCT（仮称）を結ぶ高速道路で、永井谷JCTから石ヶ谷まで6.9キロの延伸工事が始まっている。西日本高速道路会社が工事で出る土砂の受け入れを明石市に提案し、市は石ヶ谷、松陰新田の有休市有地の活用に使えと前向きに検討を始めた。

工事で出る土砂は約20万～50万m³と見積もられており、市有地などの造成によって一帯の開発に活用できると市は経済効果を見込んでいる。

一帯は自然の宝庫、貴重種も生息する貴重な里山

2つの環境団体が反対要望書 生態系への影響や中・南部の水循環への影響も懸念

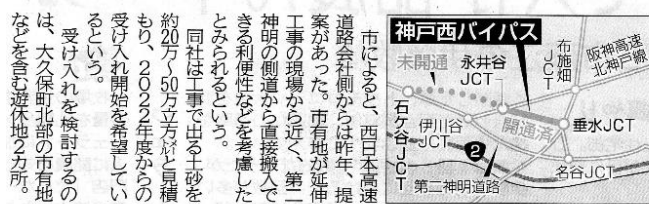
一帯は大久保町北部に広がる「市街化調整区域」で、開発を抑制し、農業振興を図る地域である。自然林が生い茂るなだらかな丘陵地で貴重種の生息も多く、明石に残る「自然の宝庫」とも言われる。

かつて、当時の市土地開発公社が先行取得していた未利用地が散在し、1980年代にはゴルフ場開発が検討されたこともあり、しばしば“開発の危機”にさらされてきた。

市は道路会社側の提案に対し「遊休地の利活用になり、地域の活性化や地域経済への貢献につながる」と積極的な姿勢だが、対象区域内に民有地が入り組んで点在することや市街化調整区域の解除、自然環境や生態系への配慮などの課題があることも認識している。

5月8日には「まるごと明石」（明石の自然と環境を考える会）が現地見学会を行い約20人が参加し、かつて市の野外キャンプ場があった雑木林や、貴重種も生息するため池なども観察し、開発反対の声を挙げた。

神戸西バイパス延伸工事 市が土砂受け入れ検討



市によると、西日本高速道路会社側からは昨年、提案があった。市有地延伸工事の現場から近く、第一神明の側道から直接搬入できる利便性を考慮したとみられる。同社は工事で出る土砂を約20万～50万立方メートルもり、2022年度からの受け入れ開始を希望しているという。受け入れを検討するのは、大久保町北部の市有地などを遊休地とする。現状は主に樹木などが生い茂る森林となっており、今後検討すべき課題として、遊休地に市有地との境界が定まらない民有地が点在するのに加え、一帯が市街化調整区域であること、自然環境や生態系への影響などが挙げられている。他方、長らく「塩漬け状態」にある市有地を活用できる好機であり、スマートICなどの同時整備による利点もあるとみている。スマートICについてはこれまで市議会などで「周」とみられる。

泉市長は、開会中の3月市議会で初めて「神戸西バイパスの整備に合わせた大久保北部エリアの市有地や周辺地域で、スマートICの設置なども含めた利活用を検討する」と表明。市は土砂を受け入れることで、スマートICなどの整備費用をめぐると同社の交渉を有利に進めたい考えもある。

神戸西バイパス 第二神明道路の迂回(仮称)と明石市の石ヶ谷JCT(仮称)を結ぶ約6.9キロの延伸工事が、永井谷JCT(仮称)から石ヶ谷JCT(仮称)まで6.9キロの延伸工事が始まっている。残り区間約6.9キロは長らく未整備だったが、整備費用を利用者の料金で賄う「有料道路事業」となったことで2020年度に着工に至った。

全面開通へ向け、事業が本格化した神戸西バイパスの延伸工事をめぐり、西日本高速道路会社（大阪）市が工事で出る土砂の受け入れを明石市に提案し、市が同市大久保町北部の市有地などの受け入れを検討していることが1日までに、市などへの取材で分かった。泉市長は3月市議会で、第二神明道路のスマートインターチェンジ（IC）整備などを、含む同町北部エリアの活用を表明しており、土砂の受け入れに伴う課題の整理を進めている。（小西隆久）

市有地など スマートIC整備視野

明石市議会が変？ 10会派構成に 一人会派が半数

多数3会派で議運委、特別委独占し“いびつな運営”へ

明石市議会は慣例による正・副議長の交代などの役員改選を5月14日に行ったが、正副議長と監査委員、議会運営委員会、特別委員会、4つの常任委員会の正副委員長を多数会派の自民党真誠会と公明党でほぼ独占し、常任委員会の副委員長ポスト1つに唯一の3人会派から就任するという人事を決めた。

これに先立って4月に会派の変更届が行われたが、未来明石の3人がそれぞれ一人会派になり、フォーラム明石の1人がかがやきネットに移ったために一人会派が4つ増え、8会派から10会派になった。明石市議会は申し合わせで「3人以上」の会派で代表者会や議会運営委員会、特別委員会を構成することになっていることから、一人会派5人と二人会派4人の計9人の議員は議会運営の協議に関われないことになり、長期総合計画を審議する特別委員会にも参加できない“いびつな運営”になった。

特別委員会は、常任委員会ですべての議員が関われないことから、重要案件について設定されることが多いが、明石では事実上「多数会派による会派協議」の場になっている。

自民党真誠会	11
公明党	6
かがやきネット	3
共産党	2
維新の会	2
スマイル会	1
フォーラム明石	1
大路会	1
未来明石	1
かけはしSDGs	1
(定数30、欠員)	